

論 文

自殺の危険性がある精神分裂病患者 の自我状態の機能分析

— 東大式エゴグラム (TEG) を用いて —

川端 稔・谷村 浩子・赤坂 政樹

土本 千春・下平 律子・川縁 道子

(金沢大学医学部附属病院)

The Analysis of Ego Patterns among Hospitalized
Schizophrenic Patients with High Suicidality
— Useing the TEG —

Minoru Kawabata, Hiroko Tanimura, Masaki Akasaka,
Chiharu Tsuchimoto, Rituko Shimohira and Michiko Kawabuchi
Kanazawa University Hospital

要 旨

精神分裂病患者は自殺の意図を明かさずに企図する危険性があり、未然に防止することが看護上の問題点である。自殺企図に及んでいない者と自殺未遂者では自我状態の機能に相違があるのか疑問が生じ、自殺防止の看護に役立てることを目的に本研究を行った。自殺の危険性がある精神分裂病患者8名を対象に、自我状態についてTEGを用いて分析し希死者と未遂者の傾向と特性について検討した。その結果、希死念慮時、希死念慮を表出でき自殺企図に及ばない希死者のTEGの型はV型であるが、希死念慮を表出できず自殺企図した未遂者のTEGの型はN型であった。抑鬱タイプは、精神症状の改善に伴いTEGの型はN型からAC優位型に変化し希死念慮も消失するが、幻覚妄想タイプは、希死念慮が消失してもTEGはN型であり、不安、緊張が強く自殺の危険性が高いと示唆された。